

## (2) 東北



東北地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、\_ は下方に変更)

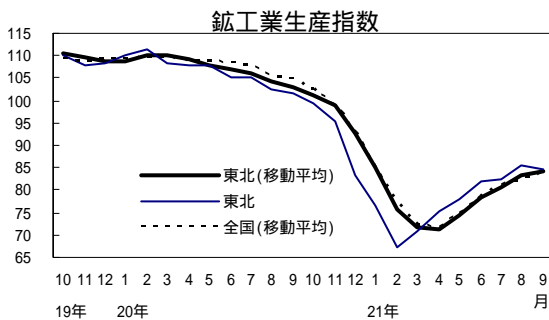
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年8月)	今回(平成21年11月)
雇用情勢	急速に悪化	極めて厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は持ち直している。

電子部品・デバイス、モス型半導体集積回路及びコネクタを中心に大幅に上昇している。食料品・たばこは、加工食品が堅調だったため、おおむね横ばいで推移している。一般機械は、半導体製造装置及びプラスチック用金型などで上昇している。情報通信機械は、無線通信装置及びノート型パソコンを中心に上昇している。化学は、医薬品及び塩化ビニリデン樹脂などで減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。  
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

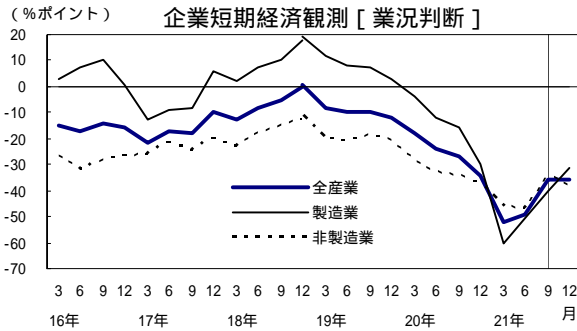
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	17.9	64.3	11.4	16.0	4.4
食料品・たばこ	11.8	0.4	0.6	0.0	8.7
一般機械	10.1	14.9	9.0	13.1	10.7
情報通信機械	9.6	3.7	3.6	3.5	22.7
化学	7.0	1.0	6.6	7.8	5.4
鉱工業	100.0	9.4	7.5	8.8	1.7

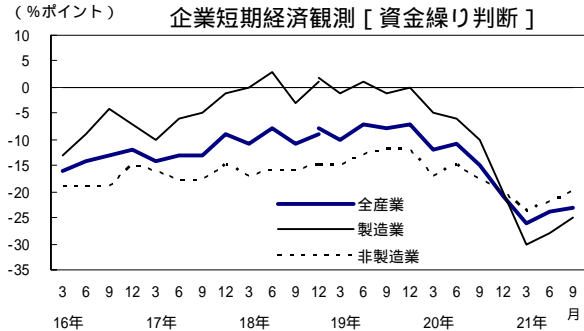
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

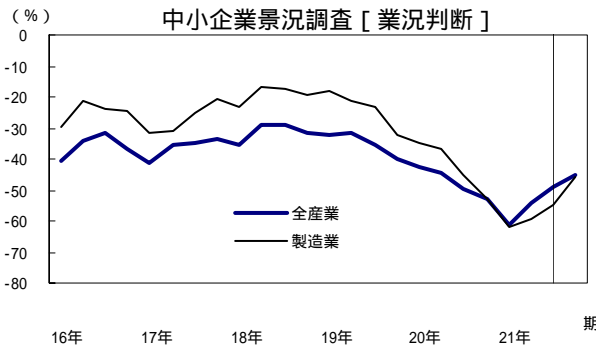
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

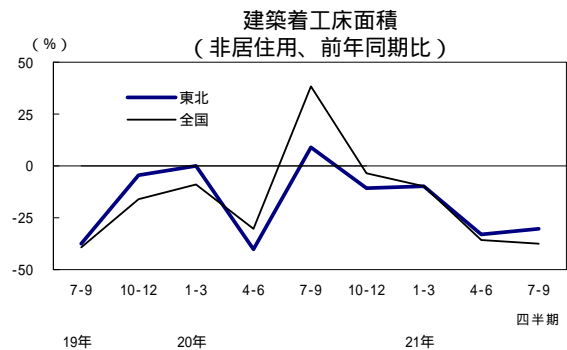
「一部のサービス業で業績が回復しているクライアントはあるものの、小売業や建設業のクライアントは業績が低迷している(公認会計士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

### 企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	30.1	26.4 ( 6.7)
製造業	39.1	28.2 ( 10.0)
非製造業	1.8	22.5 ( 0.7)

(備考) ( )は前回(6月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

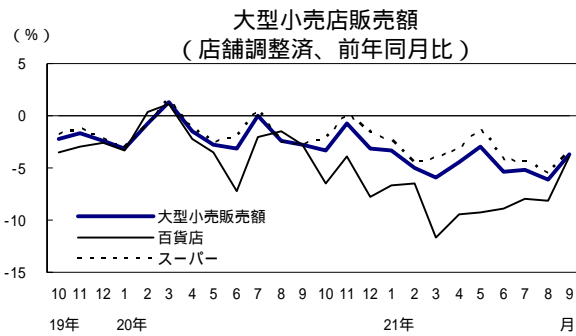
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、クリアランスセールにより食器やインテリア関連に動きがみられたものの、夏物衣料全般は振るわず、前年を下回った。8月は、生鮮食品や菓子、地場産品の土産物が好調だったものの、夏物最終セールや秋物衣料の低調などから、前年を下回った。9月は、催事により生鮮食品や菓子が好調だったものの、秋物衣料全般が振るわず、前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の10月の売上高は前年同月比で9.5%減となっている。

スーパーは、液晶テレビ、DVDプレイヤーや大型連休期間の土産用菓子に動きがみられたものの、衣料品が全般的に低調で、前年を下回った。

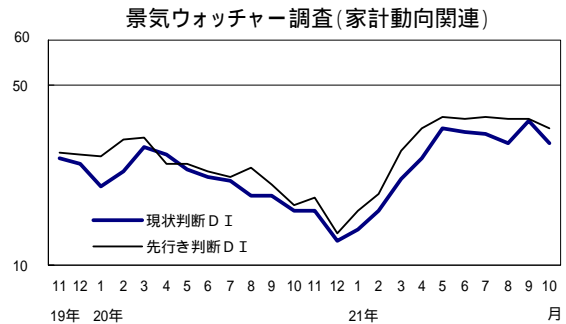
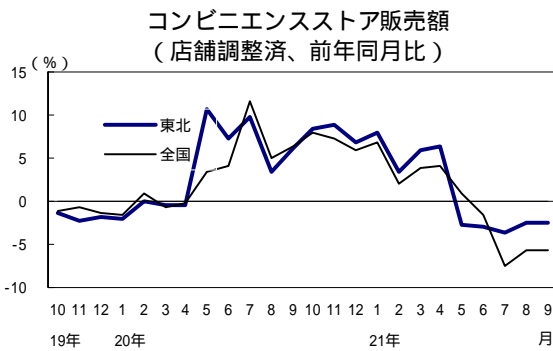
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「新車の販売台数は前年を上回って推移しているものの、価格の安い環境対応車に受注が集中しており、全体的な売上の底上げに繋がらない(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.5	4.7	4.2	5.1
百貨店	6.2	8.4	9.2	6.7
スーパー	1.3	3.7	2.9	4.6
乗用車	11.5	20.6	15.3	6.1
景気ウォッチャー	19.9	23.0	37.9	39.3

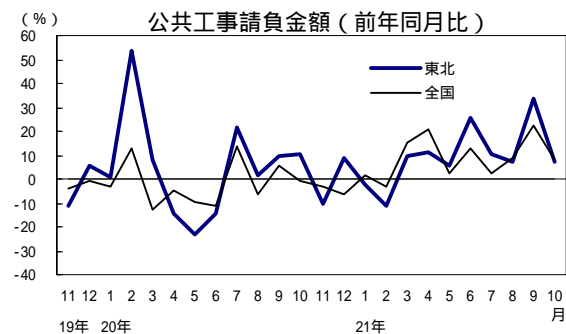
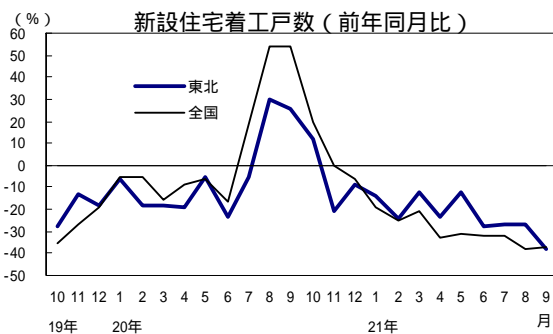
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。  
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計でみると前年度を上回っている。

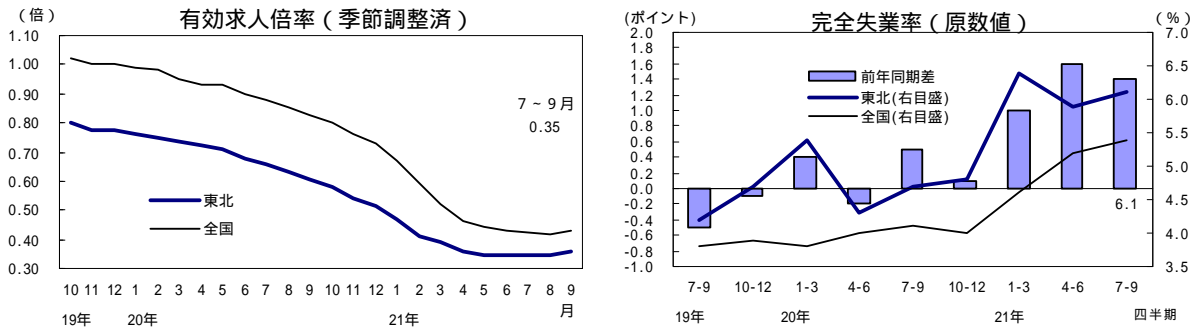


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

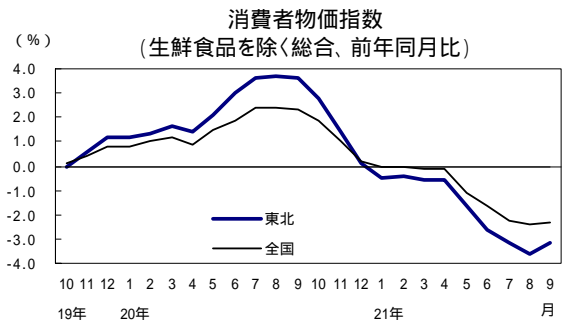
「求人数の低迷は続いており、特に事務職は求人が少ない。工場業務などの求人が大半なので、求人と求職者の希望が合わず、無理な応募で何度申し込んでも就職できないケースが散見される(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額も減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月	21年10月
倒産件数	261	239	231	202	69
(前年比)	7.9	9.5	20.6	29.9	35.5
負債総額	729	739	776	288	157
(前年比)	10.0	22.3	21.1	73.6	42.2



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・大手流通の低価格戦略の影響で、スーツに対する客の低価格志向が強まり、1品単価、買上点数共に低迷している(衣料品専門店)

<先行き>

・ボーナスの減額により、本格的な年末商戦の期間も売上は厳しい状況が続く。年末だからぜいたくをするという消費者は減少し、必要最低限の生活水準を守る節約志向は強まる(その他専門店[酒])

